



# CIO Advisory

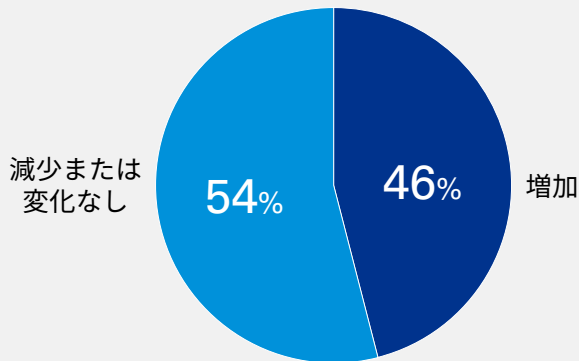
ITケーパビリティアセスメント  
IT Capability Assessment

## IT改革に向けた第一歩

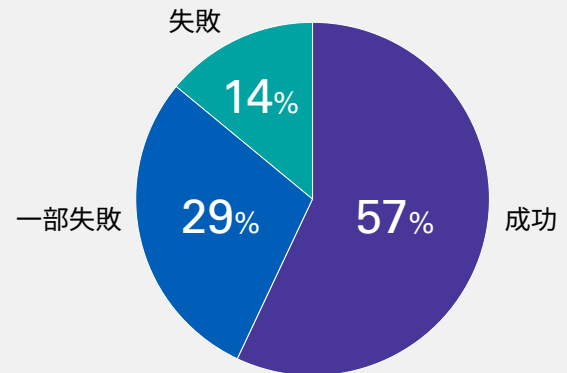
### 自社のITを知ることの重要性

事業拡大・多様化に伴うグローバル展開や企業価値および競争力向上に向けた経営資源の“選択と集中”など、さまざまなビジネスアジェンダを支えるため、多くの企業はITへの投資を増やし、改革に取り組んでいます。ただその反面、期待されていた効果が完全には得られていないと感じている企業が未だ多く存在することも事実です。

#### 2014年度比較でIT投資額が増加したか否か？



#### 近年のIT投資に対する結果

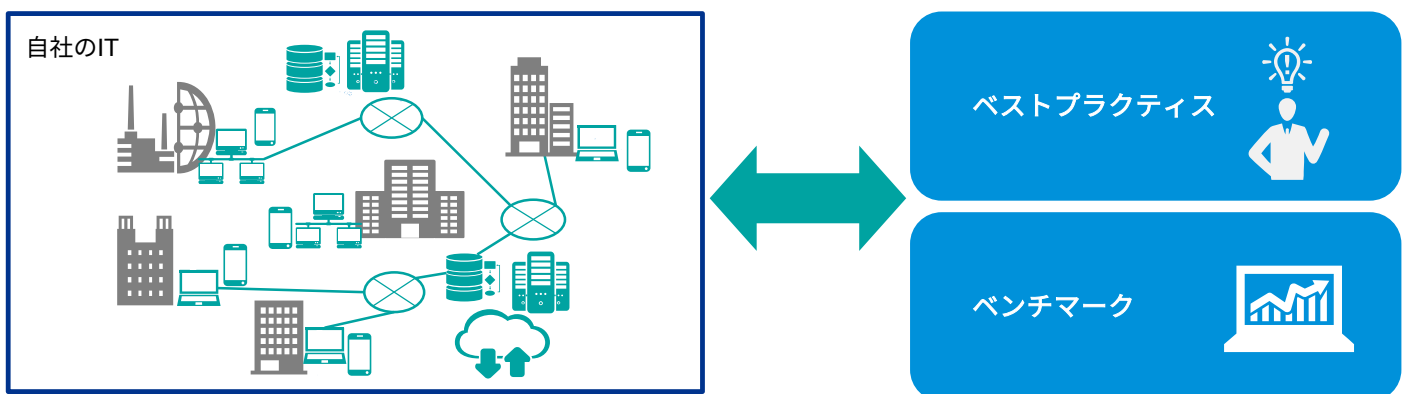


出典：“Harvey Nash / KPMG CIO Survey 2015” 世界 3,691名のITリーダーへのアンケート結果

では、なぜ期待していた効果が得られなかったのでしょうか。企業の置かれている状況などによって理由は異なるものの、そもそもスタート地点で自分たちが置かれている状況やスキルセットを十分分析していなかったことにより、問題の根幹部分へ踏み込まず、満足のいく結果が得られないケースが多く見られます。

### 自社のITを知るためには？

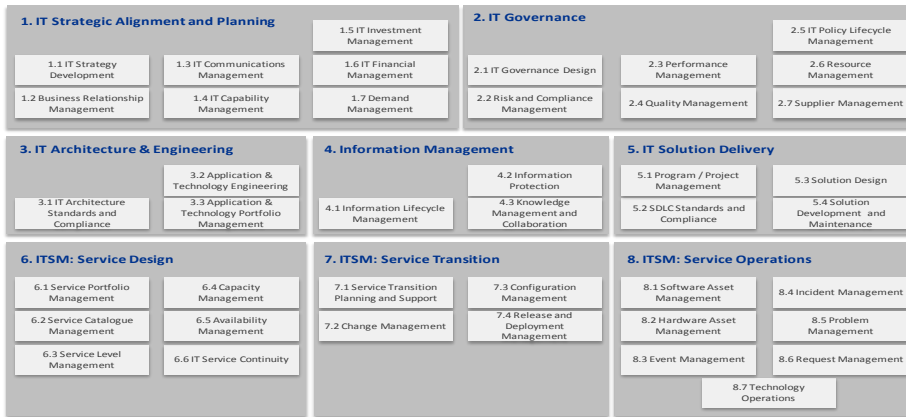
IT組織として何を強化しなければならないのか、またどのような成長パスを描けば良いのかを理解するため、KPMGではまず自社のITの現状を業界のベストプラクティスやベンチマークなどと比較・評価することが効果的であると考えます。



# KPMGの支援サービス

## ITケーパビリティモデル

KPMGでは企業のIT能力を診断する際、業界標準 (ITIL、COBITなど) や過去の経験から得たベストプラクティスを基に形成されたフレームワーク「ITケーパビリティモデル」を用います。



### ITケーパビリティモデルの構成要素

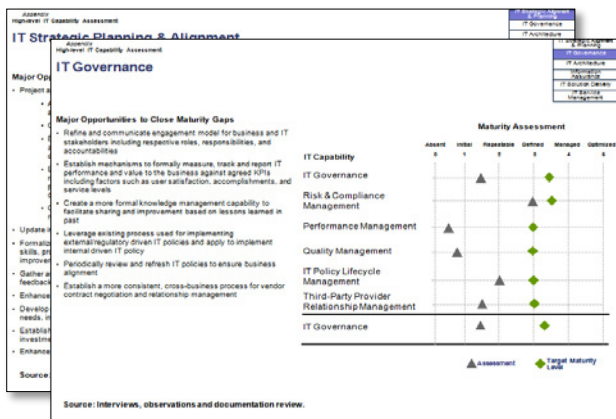
1. IT戦略立案・計画管理
2. ITガバナンス
3. ITアーキテクチャ
4. 情報管理
5. ITソリューションデリバリー
6. ITサービス管理 (設計)
7. ITサービス管理 (移行)
8. ITサービス管理 (運用)

ITケーパビリティモデルは、企業のIT組織が効率的かつ効果的に機能するために必要な能力およびそれらの現状を評価する上で必要となる指標 (KPI)、ベストプラクティス、成熟度判定基準、代表的なプロセスのサンプルについて、IT組織を構成する8つの要素ごとに定義しています。

## ITケーパビリティアセスメント

「ITケーパビリティモデル」に定義されている評価指標 (KPI)、成功事例、成熟度判定基準、代表的なプロセスを用いることで、クライアント企業のIT組織・機能の現状を評価し、目指すべき将来像の具体化ならびにそれらの実現に向けた施策立案を支援します。

### 成熟度評価レポート (サンプル)



### 施策一覧 (サンプル)

Area	Findings	Recommendations*
<b>IT Strategic Alignment &amp; Planning</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Lack an effective, top-down process for IT strategy development where the business drives priority setting with guidance from IT.</li> <li>«client»'s existing high-level IT strategy received only cursory business approval and support. In practice, the business requests what they want, which they may or may not receive depending on how IT decides to prioritize.</li> <li>A reported lack of transparency around IT's activities and decision-making has led to mistrust and dissatisfaction among some key business stakeholders.</li> <li>Business and IT do not partner well. However both express a desire for a partnering approach where IT provides guidance and input for the business to make technology and investment decisions.</li> <li>IT management disciplines need to be improved to effectively support business decisions, including innovation and option analysis, business case development, formal cost &amp; time estimating, demand management and budgeting by business unit.</li> </ul>	<p><b>High Priority</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Establish and execute a process for agreeing IT priorities and associated strategy using a well-defined, top-down approach. In best practice organizations, this a collaborative effort, directed by executive management, with coaching and leadership from IT and active engagement from the business. To ensure that all information is transparently communicated, business and IT leaders should make every effort to attend relevant meetings.</li> <li>Implement a basic business case process to evaluate proposed IT investments. Wherein, IT assists in providing input for smart decision-making (i.e. potential solution options, costs, timing and impacts) and the business ultimately makes a decision according to their requirements.</li> <li>Establish an IT budget which accounts for allocation by business unit and initiatives and is reconciled on a regular basis by IT. Decisions for shifting or re-prioritizing efforts/budget should fall with the business unit or with the IT executive chair when necessary.</li> </ul> <p><b>Moderate Priority</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Implement demand and resource planning and management disciplines based on business needs and calculated estimates for resource requirements.</li> </ul>

## 想定される効果

### ITケーパビリティアセスメントの活用例

IT組織の抱えるさまざまな課題に対し、ITケーパビリティアセスメントはそれらの取組みの方向性を決めるための第一手として、その後の工程を効果的に進めることが期待できます。

IT組織の主な取組み	ITケーパビリティアセスメントによる想定効果
企業の成長戦略を支えるIT計画策定	現状のIT組織のスキルセット、保有テクノロジーなどを明確にすることで現状IT戦略実現のために不足しているものや問題点が浮き彫りになり、より具体的な実現プランを立てることが可能になります。
IT部門のガバナンス強化	「ITケーパビリティモデル」上で定義されているITIL、COBITなどの業界標準と、グローバルで蓄積されたベストプラクティスを融合させたあるべき管理体制と現状の管理体制を比較することで、管理面での課題が明確となり、ピンポイントで強化策を実施することが可能になります。
ITコスト削減	「ITケーパビリティモデル」上で定義されているベストプラクティスやKPIを用いて、実際のIT組織の体制、プロセス、システム構成などを評価することで、コスト削減が見込めるポイントがより明確になります。
テクノロジーの導入・改善	最新のテクノロジーの導入ならびに既存システムの改善を行ううえで必要となるスキルや体制を明確にすることで、取るべきアプローチや投資すべき対象がより明確になります。

### Why KPMG ?

KPMG CIOアドバイザーではGlobal CoE (Center of Excellence) を設置し、IT組織のケーパビリティの向上と、それに伴うビジネス価値向上への継続的な貢献の仕組み作りなど、数々のクライアントビジネスの変革を支援してきました。この経験を基にしたノウハウを活用する事で、クライアント企業が抱えるさまざまな課題の解決を支援します。

- グローバルで蓄積されたさまざまなベストプラクティスを基に確立された方法論とテンプレートへのアクセスが可能であり、クライアント企業の置かれている状況に合わせて適宜それらを活用します。
- Global CoE (Center of Excellence) を通じて、さまざまなノウハウをグローバルで共有しており、国をまたいだ取組みにおいてもサービスレベルに隔たりなく支援します。

# お問合せ先

KPMGコンサルティング株式会社

〒100-0004  
東京都千代田区大手町1丁目9番5号  
大手町フィナンシャルシティ ノースタワー  
TEL : 03-3548-5111  
FAX : 03-3548-5114

[kpmg.com/jp/kc](http://kpmg.com/jp/kc)

松本 剛 / Go Matsumoto  
パートナー、CIOアドバイザー  
[go.matsumoto@jp.kpmg.com](mailto:go.matsumoto@jp.kpmg.com)

石井 信行 / Nobuyuki Ishii  
ディレクター、CIOアドバイザー  
[nobuyuki.n.ishii@jp.kpmg.com](mailto:nobuyuki.n.ishii@jp.kpmg.com)

荒木 良之 / Yoshiyuki Araki  
マネジャー、CIOアドバイザー  
[yoshiyuki.araki@jp.kpmg.com](mailto:yoshiyuki.araki@jp.kpmg.com)

本リーフレットで紹介するサービスは、公認会計士法、独立性規則及び利益相反等の観点から、提供できる企業や提供できる業務の範囲等に一定の制限がかかる場合があります。詳しくはKPMGコンサルティング株式会社までお問い合わせください。

ここに記載されている情報はあくまで一般的なものであり、特定の個人や組織が置かれている状況に対応するものではありません。私たちは、的確な情報をタイムリーに提供するよう努めておりますが、情報を受け取られた時点及びそれ以降においての正確さは保証の限りではありません。何らかの行動を取られる場合は、ここにある情報のみを根拠とせず、プロフェッショナルが特定の状況を綿密に調査した上で提案する適切なアドバイスをもとにご判断ください。

© 2016 KPMG Consulting Co., Ltd., a company established under the Japan Company Law and a member firm of the KPMG network of independent member firms affiliated with KPMG International Cooperative ("KPMG International"), a Swiss entity. All rights reserved.16-1288

The KPMG name and logo are registered trademarks or trademarks of KPMG International.